

---

# マスクに隠れて

日向葵

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

マスクに隠れて

### 【Nコード】

N9582Q

### 【作者名】

日向葵

### 【あらすじ】

初めて花粉症にかかった私。くしゃみ、鼻水がとまらなくて、大変だったけれど、思いがけず良いこともあるようで！？

OL女子の、まことに慎ましい、だけどちょっぴり幸せなお話です。

雪がふった次の日、私はくしゃみをとまらなくなった。

仕方がないので、駅近くのコンビニでマスクを買い、会社に行くと隣のデスクの後輩に早速声をかけられる。

「原田さん、風邪ですか？」

「かぜ…ではないんだと思うんだけど、今朝から鼻水が止まらなくて。」

そう言っている側から、水のようなさらっとした鼻水が鼻の奥から押し寄せる。

「それ、きつと花粉症ですよ。」

「花粉症!?!」

「今朝のニュースで、今日は気温が上がるから花粉注意ってやってましたもん。」

「私、今までなかったことないんだよ?」

「そういう人が、いきなりかかったりするんですって。」

後輩の田山くんは、ご愁傷様とばかりに憐れみを含んだ目で首を振った。

そういえば、目も少し痒くて、コンタクトがごろごろしてる気がする。

(ただの寝不足かと思っていただけ…)

「ふえつくしよん!」と盛大にくしゃみをする、横から田山くんの忍び笑いが聞こえた。

どうやら27年間生きてきて、初めて私は花粉症にかかってしまっ

たようだ。

その後も私の鼻水は一向によくならず、仕事をしては鼻をかんでいたので、

ゴミ箱にはちり紙が山盛りになってしまっていた。

なんせ黙っていてもたれてくるから、たちが悪い。

電話中でも会議中でもとめどなく流れだす鼻水に、私もさすがに閉口した。

「原田さん、風邪でもひいたの？」

私が鼻水と格闘していると、給湯室に行くついでなのだろうか、

竹井さんがいつもの黄色いマグカップを持ったまま声をかけてきた。

彼のデスクは、私のデスクの対角線だというのに、どうしてわかったんだろう？と

考えていると、それが伝わったのか、竹井さんは面白そうに笑って言った。

「こつちまで、君の豪快なくしゃみが聞こえたからね。」

思わずかああと顔が赤くなる。

この時ほどマスクをしていて良かったと思っただけではない。

「大丈夫なの？」

ちょっとだけ心配そうな声音に戻った竹井さんに、マスクをしたまま、ぼそぼそと話す。

「大丈夫です。たぶん花粉症かと…。」

「そりや大変！今年のは手ごわいっていうし。鼻水辛いでしょ？」  
俺も毎年悩まされてるからな〜とぼやく竹井さんがちよつと可愛く  
て、思わず微笑む。

「辛いけれど、ほら今マスクしてるじゃないですか。この下でちよ  
ちよつと鼻にティッシュを詰めてるから  
垂れてこないんですよ！」

「鼻にティッシュって…。」

ちよつと呆気にとられた顔をして、それからぶつと吹き出して、  
竹井さんはおかしそうに口元を手で押さえる。

「ほんとに、原田さんって面白い。」

そして、そのまま給湯室に行ってしまったので、  
私はしばらく安心して、彼の去った方を見つめていた。

するとコーヒーをついだ竹井さんが戻ってきて、思い出したように  
ポケットから何かを取り出して、  
私の机に置いた。

「それ、あげる。必要でしょ？」

竹井さんがくれたのはポケットティッシュだった。

なんてことはない、駅前で配られているようなものだったけれど、  
そこにはほんのりと竹井さんのたばこの残り香と、少しだけコーヒ  
ーの匂いが混じっていた。

思わずティッシュを鼻にあてがったまま、花粉症になった喜びをか  
みしめる。

(か、花粉症になって良かった…！)

その後、しばらく顔がにやけてしょうがなかったけれど、  
マスクのおかげで誰にも気づかれずに、思い出し笑いを楽しめたこ  
とは、私だけの秘密だ。  
もちろん鼻水と、おまけによだれも垂らしながら（笑）

(後書き)

久しぶりの短編小説です。

楽しんで頂ければ幸いです

実際私も花粉症だったり… (苦笑)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9582q/>

---

マスクに隠れて

2011年7月23日13時45分発行